



管理ツール 操作マニュアル

S01-05 データ連結設定

株式会社 エヌジェーケー

- ・このソフトウェアの著作権は、株式会社エヌジェーケーにあります。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することは法律で禁止されております。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・このソフトウェアの仕様およびマニュアルに記載されている事項は、将来予告なしに変更することがあります。
- ・このマニュアルで使用している画像には、開発中のものも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

DataNature および DataNature Smart は、株式会社エヌジェーケーの登録商標です。
その他の商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

CONTENTS

マニュアルの表記	S01-05_0
1.DataNature Smart 全体概要図	S01-05_1
2.基本操作	S01-05_2
2-1 ジョブの作成	S01-05_2
◆データ連結	S01-05_3
◆データ結合	S01-05_4

マニュアルの表記

◆ 呼称について

本マニュアルでは以下の呼称を使用しています。

DataNature Smart 管理ツール :DN 管理ツール

DataNature Smart クライアント :DN クライアント

◆ 画面に表示されるコマンド名などの文字

コマンド名やダイアログボックス名など、画面上の固有の文字は [] で囲んで表記します。なお、ユーザーによって異なるデータボタンは < > で囲んで表記します。

【例】

[編集]コマンド、[検索]ダイアログボックス

<大阪営業所>データボタン

◆ マニュアルで使用しているアイコン



“注意”を意味します。

知っておくべき重要な事柄や行なってはならない操作など、注意すべきことについて記載されています。



“ポイント”を意味します。

操作や内容のポイントとなる事柄について記載されています。



“参考”を意味します。

知っておくと便利な操作や内容などのノウハウについて記載されています。



“参照”を意味します。

操作や内容に関連するマニュアルの参照ページについて記載されています。

◆ マニュアルで使用している画像について

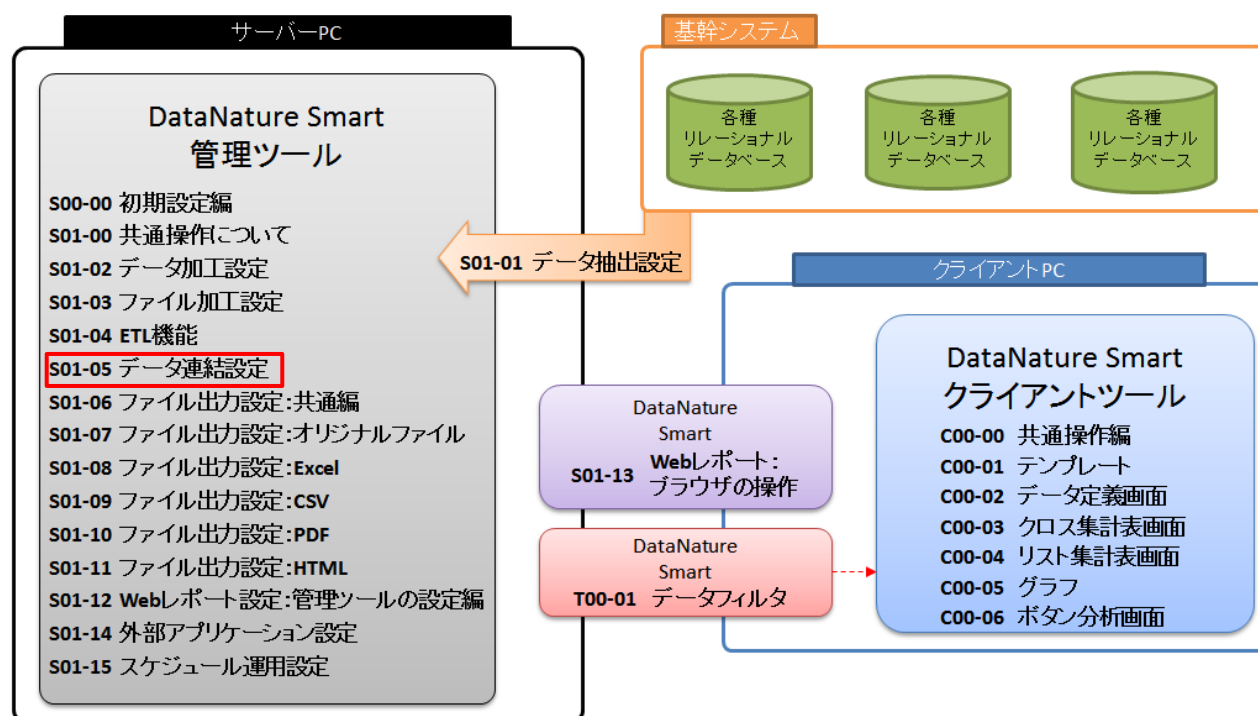
マニュアルで使用している画像には、開発中のものも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

◆ 機能について

導入された製品構成によって、利用できない機能や制限があります。

1. DataNature Smart 全体概要図

本マニュアルでは、S01-05 データ連結設定について記載しています。



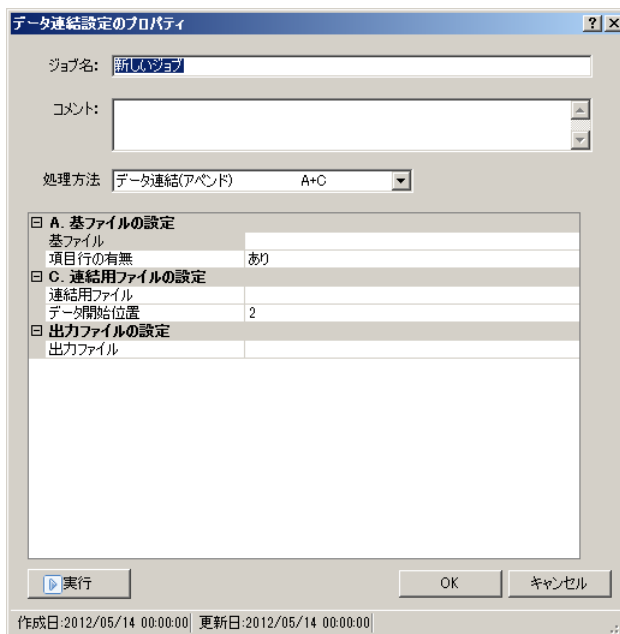
2. 基本操作

2-1 ジョブの作成

データ連結設定では、2つのテキストファイル(*.csv)を連結(アペンド)したり、マスターファイル(*.csv)との結合(マッキング)を行ない、データを一本化することができます。

◆ データ連結

- 1  DN 管理ツールの[DataNature の管理]-[ジョブ設定]ノードをクリックし、メニューバー[ジョブ設定]-[ファイル操作系作成]-[データ連結設定]をクリックします。
([DataNature の管理]-[ジョブ設定]-[データ連結設定]ノード上のコンテキストメニュー[新しいジョブ])
▼[データ連結設定のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [ジョブ名:]テキストボックスに、ジョブ名を入力します。
- 3 [コメント:]テキストボックスに、データ連結設定についての説明などを任意に入力します。
- 4 [処理方法]ドロップダウンリストから、処理方法(ここでは、[データ連結(アペンド)])を選択します。
- 5 続いて、処理対象となるファイルを指定します。

A.基ファイルの設定	連結処理の基となるファイルを指定して、そのファイルの「項目行の有無」を指定します。
C.連結用ファイルの設定	基ファイルに連結するファイルを指定して、そのファイルの「データ開始位置」のレコード行番号を指定します。
出力ファイルの設定	連結処理を実行した結果を出力するファイルを指定します。



「項目行の有無」で「なし」を選択した場合は、基ファイルの 1 行目をデータ開始行とみなします。出力ファイルの先頭レコード行には、項目名称行(「項目 001」、「項目 002」...)が自動的に挿入されます。



[連結用ファイル]欄にフォルダーを指定すれば、その指定フォルダー内にあるすべてのテキストファイル(*.csv)を順に連結することができます。

- ・連結順序の指定はできません。
- ・基ファイルが[連結用ファイル]で指定したフォルダー内に存在する場合は、基ファイルを除いて連結されます。
- ・[処理方法]で「連結用ファイルに結合結果を連結 C+(AxB)」を選択した場合には利用できません。(処理実行時にエラーとなります。)

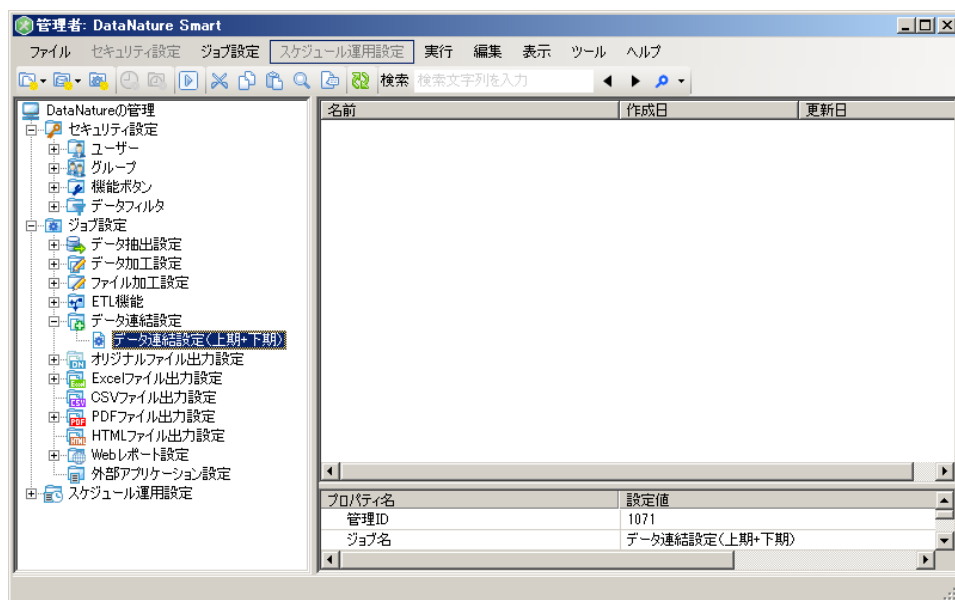


[実行]ボタンをクリックすると、[読み込み件数の設定]ダイアログボックスが表示され、件数を限定してテスト実行することができます。

6

設定が完了しましたので、[OK]ボタンをクリックし、ジョブを登録します。

▼[データ連結設定のプロパティ]ダイアログボックスが閉じ、管理ツールの画面に戻ります。設定した内容がプロパティ表示領域に表示されます。



データ連結(アペンド)機能を利用する場合には、基ファイルと連結用ファイルのデータ構成(項目列数やその並び順)を合わせておく必要があります。なお、データ構成が異なっていた場合は、基ファイルのデータ構成で出力されますのでご注意ください。

- ・データ連結が失敗するデータ構成の例です。

【例 1】項目列の並び順が異なる場合
基ファイル

日付	部門	担当	金額
2012/4	営業部	鈴木	200
2012/4	営業部	田中	100

連結用ファイル

日付	担当	部門	金額
2012/4	鈴木	営業部	100
2012/4	田中	営業部	100

連結結果のファイル

日付	部門	担当	金額
2012/4	営業部	鈴木	200
2012/4	営業部	田中	100
2012/4	鈴木	営業部	100
2012/4	田中	営業部	100

【例 2】基ファイルよりも連結用ファイルの項目数が多い場合
基ファイル

日付	部門	担当	金額
2012/4	営業部	鈴木	200
2012/4	営業部	田中	100

連結用ファイル

日付	部門	担当	金額	数量
2012/4	営業部	鈴木	100	5
2012/4	営業部	田中	100	4

連結結果のファイル

日付	部門	担当	金額
2012/4	営業部	鈴木	200
2012/4	営業部	田中	100
2012/4	営業部	鈴木	100
2012/4	営業部	田中	100

- ・連結用ファイルの項目数が少ない場合には、項目の並び順さえ合わせておけば正常に連結できます。

基ファイル

日付	部門	担当	金額	数量
2012/4	営業部	鈴木	200	5
2012/4	営業部	田中	100	4

連結用ファイル

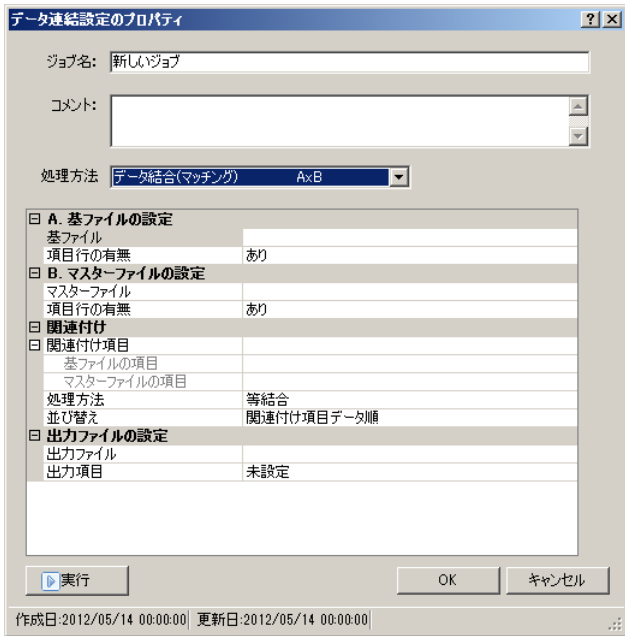
日付	部門	担当	金額
2012/4	営業部	鈴木	100
2012/4	営業部	田中	100

連結結果のファイル

日付	部門	担当	金額	数量
2012/4	営業部	鈴木	200	5
2012/4	営業部	田中	100	4
2012/4	営業部	鈴木	100	
2012/4	営業部	田中	100	

◆ データ結合

- 1  DN 管理ツールの[DataNature の管理]-[ジョブ設定]ノードをクリックし、メニューバー[ジョブ設定]-[ファイル操作系作成]-[データ連結設定]をクリックします。
([DataNature の管理]-[ジョブ設定]-[データ連結設定]ノード上のコンテキストメニュー[新しいジョブ])
▼[データ連結設定のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。



- 2 [ジョブ名:]テキストボックスに、ジョブ名を入力します。
- 3 [コメント:]テキストボックスに、データ連結設定についての説明などを任意に入力します。
- 4 [処理方法]ドロップダウンリストから、処理方法(ここでは、[データ結合(マッチング)])を選択します。
- 5 続いて、処理内容を設定します。

- A.基ファイルの設定 連結処理の基となるファイルを指定して、そのファイルの「項目行の有無」を指定します。
 B.マスターファイルの設定 基ファイルに結合するファイルを指定して、そのファイルの「項目行の有無」を指定します。
 関連付け 結合時に関連付ける項目と処理方法、並び替え(レコードの出力順)の設定を行います。
 出力ファイルの設定 結合した結果を出力するファイルと出力項目を指定します。



「項目行の有無」で「なし」を選択した場合は、基ファイルの 1 行目をデータ開始行とみなします。出力ファイルの先頭レコード行には、項目名称行(「項目 001」、「項目 002」...)が自動的に挿入されます。



関連付けの設定と出力項目の指定は、手順⑦以降をご覧ください。

⑥ 関連付けの設定を行うため、[関連付け項目]欄の参照ボタンをクリックします。

▼[関連付け設定]ダイアログボックスが表示されます。



ここで表示される項目名は、基ファイル、マスターファイルの 1 行目にあるデータです。

なお、「項目行の有無」欄で「なし」を選択した場合は、「項目 001」、「項目 002」のような連番が表示されます。

⑦ [基ファイル]と[マスターファイル]の項目リストから、関連付けのキーとなる項目を、両方の枠内からひとつずつ選択します。

⑧ [OK]ボタンをクリックします。

▼[関連付け設定]ダイアログボックスが閉じ、[データ連結設定のプロパティ]ダイアログボックスに戻ります。設定した内容が表示されます。

⑨ 続いて、結合の種類を[処理方法]欄で指定します。



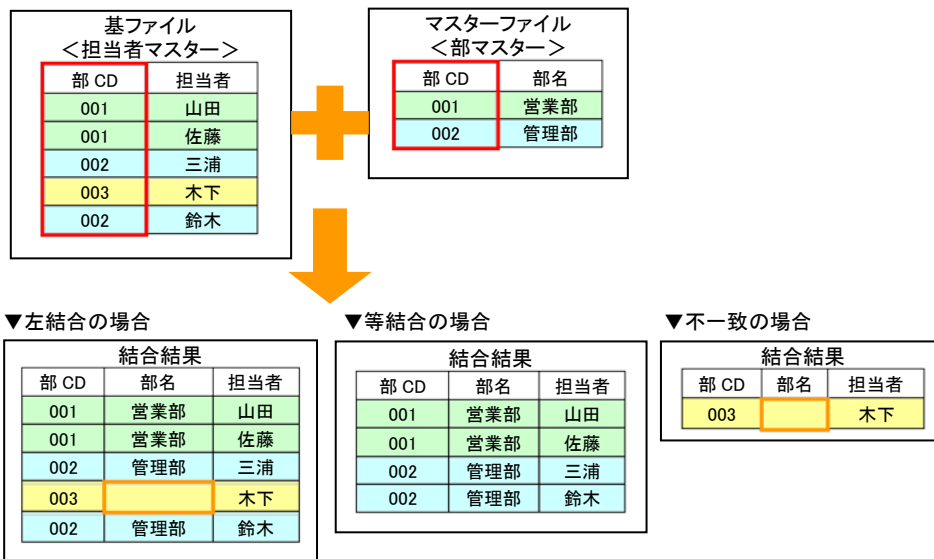
結合には、次の 3 種類があります。

左結合: 基ファイルの関連付け項目(結合キー)にあるすべてのデータと、それに対応するマスターファイルのデータを結合して出力します。なお、基ファイルの結合キーの中に、マスターファイルには存在しないデータがあった場合には、マスターファイル側の項目は NULL データとして出力されます。

等結合: 基ファイルとマスターファイルの両方に存在するデータだけを結合して出力します。基ファイルの結合キーの中に、マスターファイルには存在しないデータがあった場合は、そのデータは出力されません。

不一致: 基ファイルにあってマスターファイルになかった結合キーのデータレコードを出力します。

【例】



- 10 次に、結合結果のレコードの並び順を[並び替え]欄で指定します。



レコードの並び順は、次の3種類から指定できます。

関連付け項目データ順：関連付けのキーに指定されたデータ項目の昇順で出力します。

基ファイルレコード順：基ファイルのレコード順で出力します。

マスターファイルレコード順：マスターファイルのレコード順に並べて出力します。

- 11 次に、出力する項目を指定するため[出力項目]欄の参照ボタンをクリックします。

▼[出力項目]ダイアログボックスが表示されます。

- 12 [項目選択]欄に表示されている項目リストから、出力したい項目を選択し、[追加>>]ボタンで追加します。
[Ctrl]キーを押しながら項目を選択すると、複数の項目を同時に選択できます。



[選択済み項目]の一覧リストでは、項目の並び順を編集することができます。順序を編集したい項目を選択し、右側にある[▲]/[▼]ボタンで移動してください。

- 13 設定後、[OK]ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。

▼[データ連結設定のプロパティ]ダイアログボックスに戻ります。[出力項目]欄に「設定済」と表示されます。



[実行]ボタンをクリックすると、[読み込み件数の設定]ダイアログボックスが表示され、件数を限定してテスト実行することができます。

14 設定が完了しましたので、[OK]ボタンをクリックし、ジョブを登録します。

▼[データ連結設定のプロパティ]ダイアログボックスが閉じ、管理ツールの画面に戻ります。設定した内容がプロパティ表示領域に表示されます。

